

2.1.2 生活環境の観点

生活環境の強み・弱みから見た堺臨海部の現状は、以下のとおりです。

<強み>

- 臨海部に人々が訪れ楽しむことが可能な公園緑地が整備されています。
- 堺旧港、堺浜、浜寺水路に海を眺めることができる護岸が一部整備されています。
- 堺旧港、堺浜、堺第7-3区、浜寺水路に海や夕日を眺めることができる視点場を有しています。



図 堺泉北臨海工業地帯の夜景 図 堺旧港を眺望できる視点場 図 堺第7-3区からの眺望



図 親水護岸(左から堺旧港、堺浜、浜寺水路)

- NPO・市民により、海岸や海域の清掃活動の取組みが進められています。



図 大阪湾清掃大会



図 堺旧港のアドプト制度



図 臨海部の夕日スポットの現状（左から旧堺燈台、堺第 7-3 区、浜寺水路）

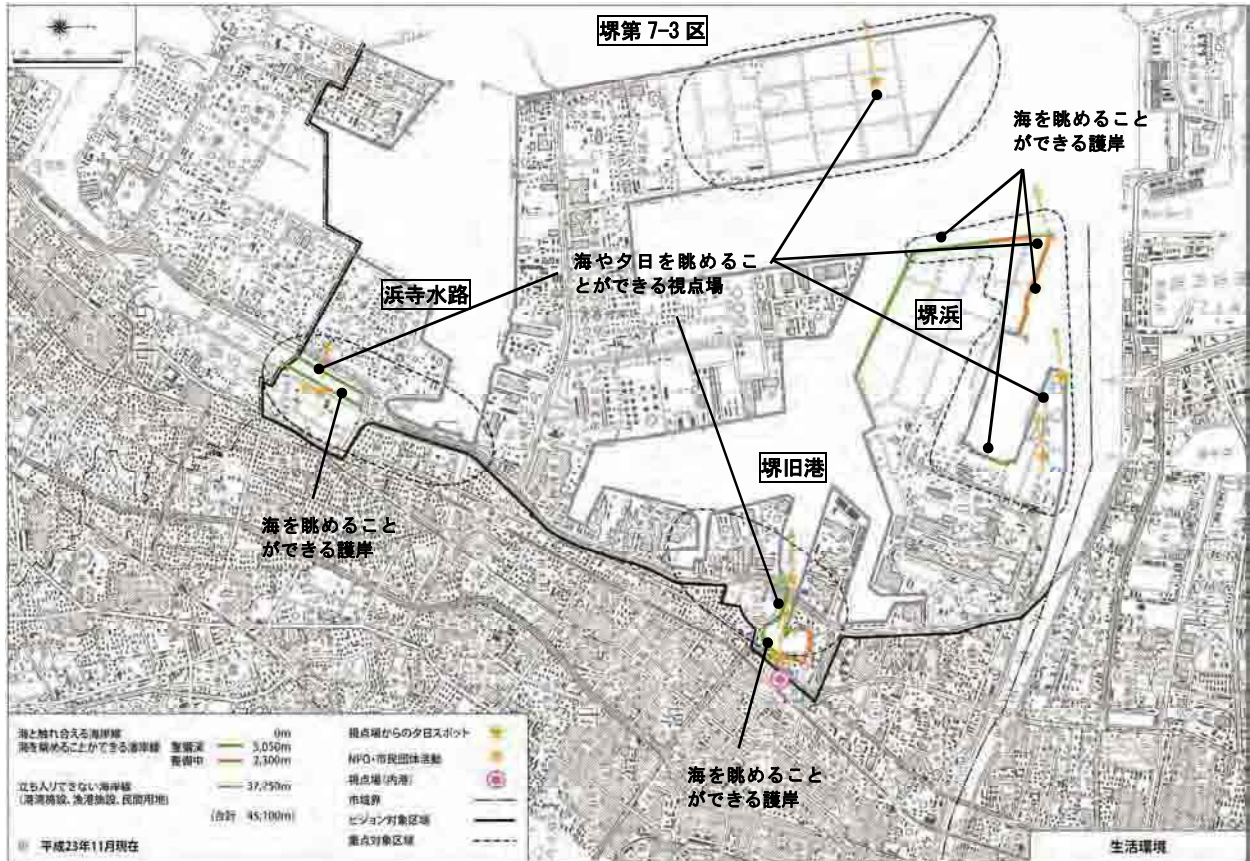


図 分析図（生活環境）

<弱み>

- 干潟、砂浜の消失により、海辺での散策、潮干狩り・海水浴等の海辺での活動ができません。
- 埋立造成、高潮護岸整備により、水際線約 45km のうち、海と触れ合える水際線はなく、眺められる水際線は約 5km にすぎません。
- 臨海部の公園・緑地のうち海を望むことができる箇所が少なくなっています。
- 海と市街地が分断され、市民が気軽に安全に海に近づくことができません。
- 市街地から距離のある堺浜や堺第 7-3 区への交通アクセス性が悪くなっています。
- 人が海と触れ合い・眺めるには港奥部の海水の水質が悪くなっています。
- 大和川から大量のゴミが流入しており、河口部の環境を悪化させています。



図 海を眺めることができない護岸



図 駅からのアクセスが悪い堺旧港



図 海への眺望や触れ合いが困難な護岸



図 河口部におけるごみの浮遊

- 臨海部の開発整備や施設立地は進みつつあるものの十分には未利用地が活用されていません。以上より、堺臨海部における生活環境の観点からみた現状としては、**良好な視点場を有しているものの、市民・来訪者・子どもの海辺での癒し・憩い空間が不足するとともに、触れ合うに相応しい水辺環境となっていない**ことです。

2.1.3 自然環境の観点

自然環境の強み・弱みから見た堺臨海部の現状は、以下のとおりです。

<強み>

- 大阪湾の海域環境改善に向けて、大阪湾再生推進協議会による「大阪湾再生行動計画」に基づき様々な施策が展開されています。
- 生物多様性の確保が期待できる大和川河口部に位置しています。
- 堺浜では人工干潟、堺第 7-3 区では共生の森づくりなど、多様な生物の生息空間の確保が進みつつあります。



図 人工干潟のイメージ



図 共生の森での活動

- 堺浜の北泊地においては「友海（ゆかい）ビーチ」と命名された生物共生護岸の実証実験が進められ、水質改善・生物生息空間の創出に向けた取組みが実施されているほか、人工海浜も整備中です。
- 漁業関係者による海の学習会や、浜寺公園での市民等による昆虫・生物等と触れ合う活動などが実施されています。



図 生物共生護岸



図 人工海浜



図 海上での漁業と海の学習



図 浜寺公園での活動(昆虫採集)

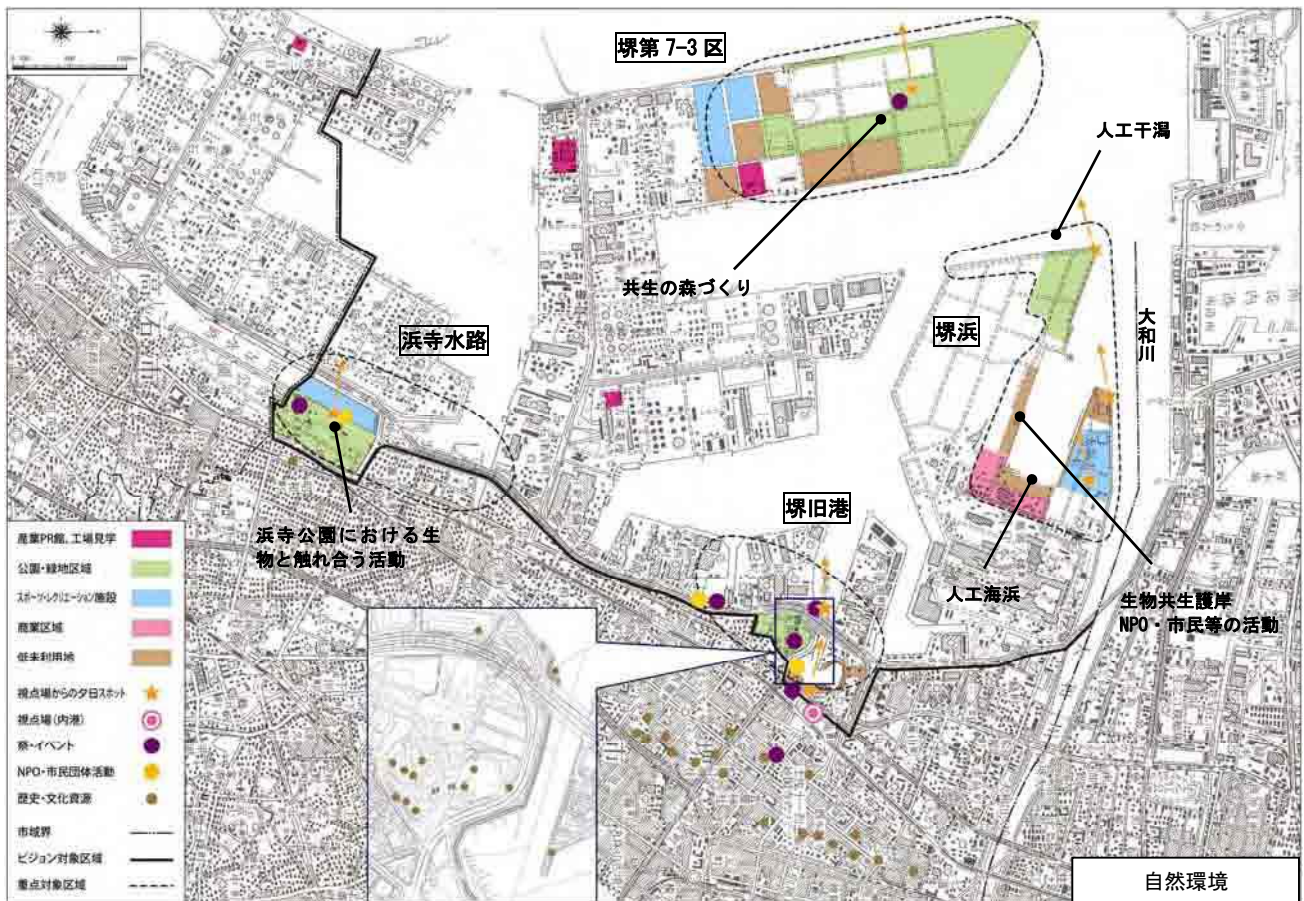
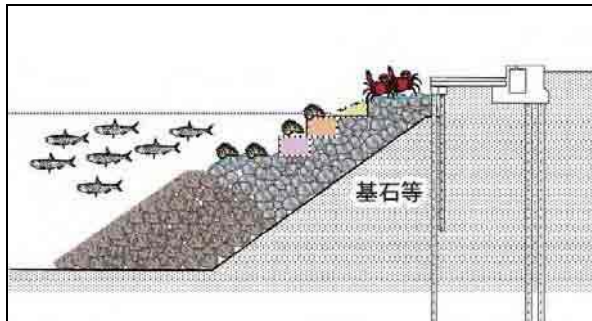


図 分析図（自然環境）



出典：国土交通省近畿地方整備局 HP より

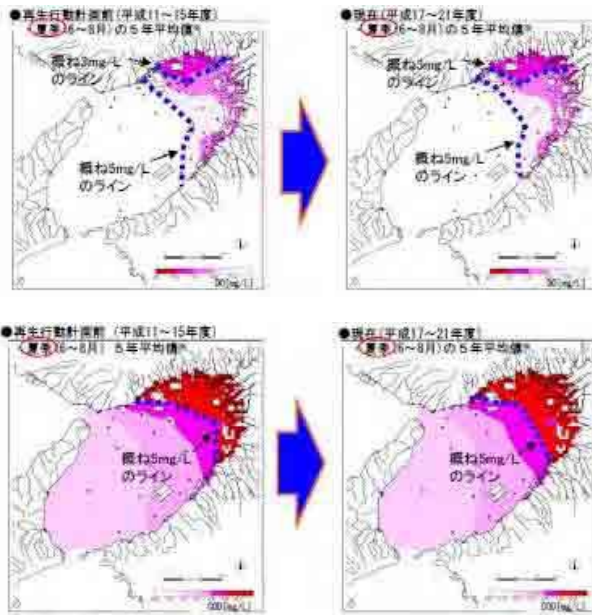
図 堺浜における生物共生護岸のイメージ



図 浜寺水路における環境学習

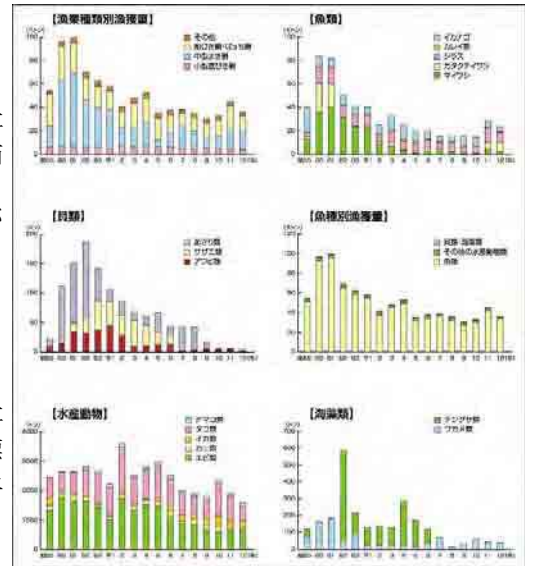
<弱み>

- 干潟、砂浜、藻場の消失、直立護岸により海水の浄化能力が低下しています。
- 海底には汚濁物質が堆積し、栄養塩類の溶出による富栄養化や貧酸素水塊発生の原因となっています。
- 過去の埋立造成に伴う深堀により貧酸素水塊（青潮）が発生しています。
- 埋立により潮流や潮汐の影響を受けにくい港奥部の海水循環が乏しくなっています。
- 上記によって、漁獲量が減少しています。



【生物の棲みやすさ】
 夏季底層 DO
 水平分布
 港奥部では大阪湾再生計画における当面の目標値である3mg/l 未満の海域が残る

【水のきれいさ】
 夏季表層 COD
 水平分布
 港奥部では大阪湾再生計画における目標値である5mg/l 以上の海域が残る

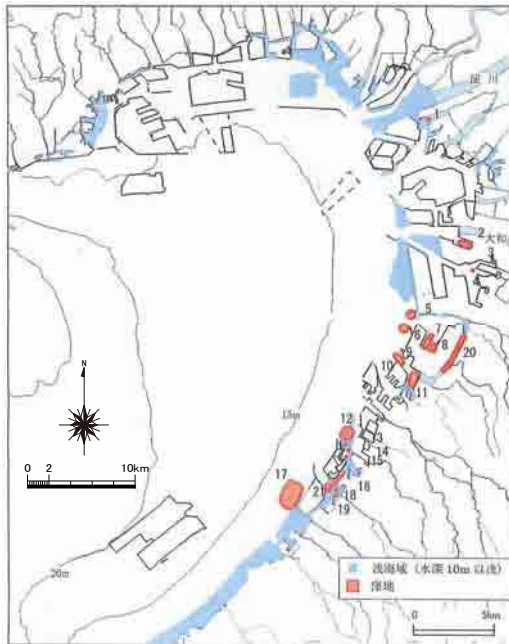


出典：大阪湾再生行動計画 平成16年度から平成21年度までの活動報告とりまとめ

出典：大阪府 HP より

図 大阪湾の底層 DO、表層 COD の分布

図 漁獲量の推移



No.	位置	表面積 (m ²)	窪地深さ (m)	容積 (万m ³)
1	正蓮寺川河口	88,000	1.0	8.8
2	北泊地	359,850	3.5	124.8
3	堺泉北港堺1区前	63,888	2.6	16.6
4	堺泉北港堺3区、4区前	19,360	5.7	11.0
5	コスモ石油原油棧橋	317,262	2.4	76.1
6	大がスLNG第2棧橋	159,720	5.4	86.2
7	浜寺泊地1	299,475	5.7	170.9
8	浜寺泊地2	160,325	8.6	136.9
9	堺泉北港泉北1区南西角	11,493	11.4	13.1
10	堺泉北港泉北1区と助松ふ頭間	105,875	11.0	116.5
11	大津泊地	500,626	8.7	437.2
12	阪南2区沖	452,540	5.8	262.5
13	阪南港阪南2区奥北	63,525	4.6	29.2
14	阪南港阪南2区奥中	32,912	2.7	8.9
15	阪南港阪南2区奥南	108,900	4.5	49.0
16	岸和田旧港内	48,400	5.0	24.2
17	阪南港4区沖	1,287,000	10.5	1,351.4
18	貝塚市津田川河口沖1	23,595	3.1	7.3
19	貝塚市津田川河口沖2	34,848	2.4	8.4
20	浜寺水路	150,282	7.7	115.7
21	阪南2区、4区間	418,660	4.6	192.6
合計				3,247.3

※白抜きは堺臨海部に位置するもの

図 大阪湾の窪地の分布図



図 直立護岸や波消しブロックにより失われた干潟、砂浜、藻場

図 深堀跡により発生した青潮

以上より、堺臨海部における自然環境の観点からみた現状は、**広大な緑地や人工干潟等、生物生息空間の形成や、水質改善への取組みが実施されているものの、海域環境の更なる改善が必要で、生物の良好な生息環境が維持できないことから、漁業等にも影響を及ぼしている**ことです。

2.1.4 地球環境問題対応の観点

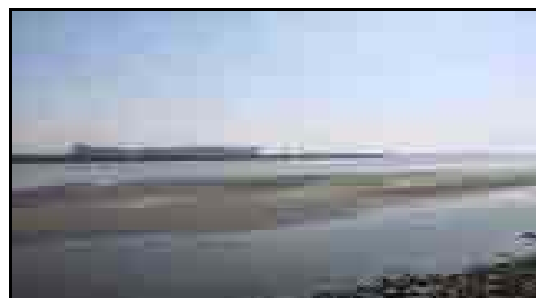
地球環境問題対応（循環型社会・低炭素社会・自然共生社会の形成、生物多様性の保全）の強み・弱みから見た堺臨海部の現状は、以下のとおりです。

<強み>

- 近年、生物多様性の保全の重要性が認識される（生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)が平成 22 年日本で開催）、大和川河口部の汽水域を活用した生物生息空間の保全・向上が期待されています。
- 堺浜においては、行政、企業、NPO による海域環境改善に向けた研究・調査、清掃活動が実施されています。
- 日本を代表する堺泉北臨海工業地帯を有し、最先端の産業技術の集積が進んでいます。
- 堺第 7-3 区では、日本で初めて民間営業を開始した堺太陽光発電施設が稼動しています。



図 堺第 7-3 区太陽光発電施設



出典：大阪湾再生計画 HP

図 生物多様性が期待されている
大和川河口部の汽水域

<弱み>

- 干潟、砂浜、藻場が消失し海辺での砕波による CO₂ 吸収能力が低下しています。
- 浅場、藻場における海藻・生物類による CO₂ 吸収能力も皆無（ブルーカーボン）です。
- 臨海部にヒートアイランド対策となるクールダムや CO₂ 吸収に寄与する大規模な緑地（グリーンカーボン）の形成が必要です。
- 今後の海面埋立による新たな土地造成は困難な状況にあり、廃棄物処分場の延命のための資源の有効活用が求められています。

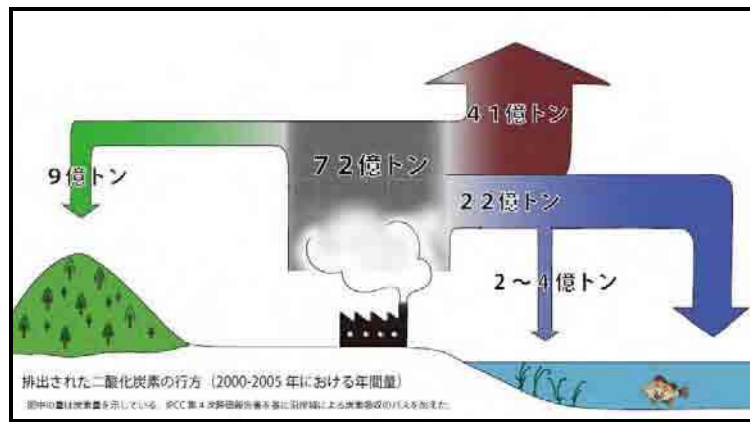


図 共生の森のイメージ



泉大津フェニックス

出典：大阪湾広域臨海環境整備センターHP
図 大阪湾フェニックス計画



出典：国土交通省 HP より

図 ブルーカーボンの概念

以上より、地球環境問題対応の強み・弱みからみた現状は、**循環型社会・低炭素社会・自然共生社会の形成、生物多様性の保全など、地球規模での環境問題への対応が求められている**ことです。